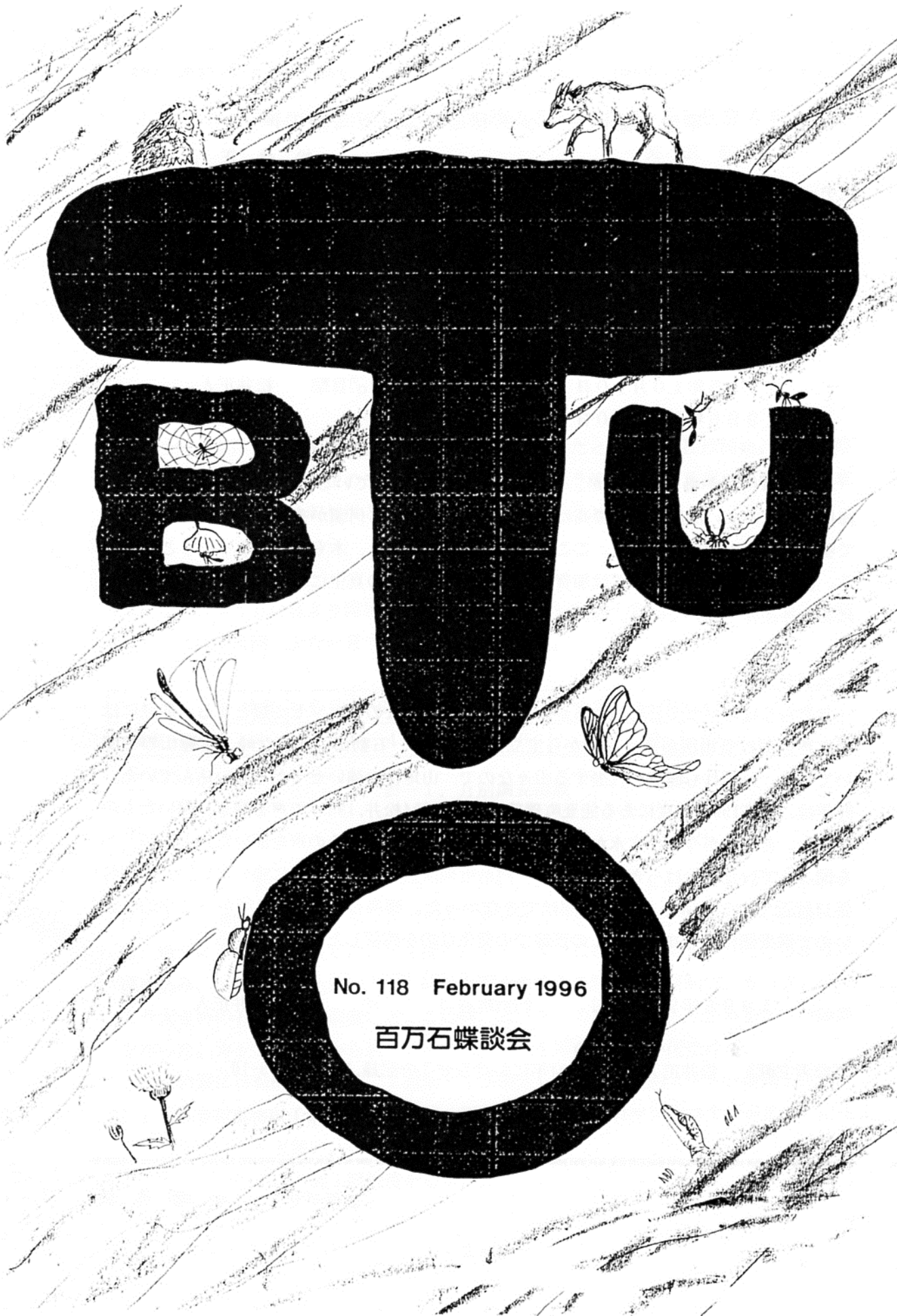


No. 118 February 1996

百万石蝶談会



## 平地で聞いたチツゼミとエゾゼミ類の声

松井正人

## 《チツゼミ》

これまで山地のセミと思い込んでいたが、昨年は標高200mの金沢市柚木(松井, 1995)や標高100mの志賀町五里峠(松井, 1995)で鳴き声を聞き、低山での分布を知った。今年は更に、海岸付近や平野の真中でも確認し、広く県下に分布していることを知らされた。

1995年10月10日	加賀市片野	1♂目撃	松井正人
1995年10月10日	加賀市西島	1♂目撃	松井正人
1995年10月10日	小松市四丁	声	松井正人

片野では何頭か鳴いていたが、アカマツの小枝で鳴いている1♂を確認した。ここは海に面していない海岸林で、標高は20m。西島の神社でも何頭か鳴いていたが、石の鳥居で鳴いている1♂を確認した。この神社林は面積があり、木も大きくうっそうとしている。標高は10m以下。四丁は加賀三湖に囲まれた低地の真中にあるが、いくぶん高い所にある神社林で鳴いていた。標高は10m程。

## 《エゾゼミ類》

おそらくはエゾゼミと思われるが、声を聞いただけなのでエゾゼミ類とする。能登には鳴き声の聞ける場所が多く、北から宝立山、高洲山、石動山、碁石ヶ峰、宝達山等で聞いている。いずれも能登を代表する山々なので、山地性の強いセミだと思い込んでいた。昨年は、標高150m程度にある能登町瑞穂の大峰神社(松井, 1995)で声を聞き、驚いたものだった。ところが今年、穴水から門前へ向かって移動中に、その声を聞いた。どの辺りから聞こえていたのかははっきりしないが、門前町別所辺りからは確実に鳴いていた。門前町谷口付近で少し調査したが、確認はできなかった。標高は100m以下だが、時期的に遅いので飛来個体かも知れず、この地域での発生なのか確認したいものである。

1995年9月15日 門前町谷口 声 松井正人

《参考文献》 松井正人, 1995. 1994年におけるセミの記録. 翔, (112): 9-10.

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

表紙デザイン：小幡英典

## 小松市の「憩いの森」におけるオサムシについて（1994年）

矢田新平

## 《はじめに》

石川県小松市吉竹地内と若杉地内にまたがって「憩いの森」がある。ここは健康の森として小松市民に親しまれており、自然を求めてやって来る多くの人達の憩いの場となっている。この地に於いて、1994年の4月から11月にかけてピットホールトラップによりオサムシを調査したので報告する。

なお、種の同定をしていただいた高羽正治氏に、紙面を借りて御礼申し上げる。

## 《調査地》

調査地は、海岸より直線距離にして7.25km内陸に入ったところで海拔は50m。加賀平野に接した丘陵地で、20年生のアカマツとクヌギ、コナラ等の落葉広葉樹の混合林で下草はあまりない。ここには若杉堤と吉竹堤の2つの堤がある。

## 《調査期間と回数》

調査は1994年4月14日より開始し、11月23日で終了した。その間の調査回数は合計43回で、多い月には11回、少ない月で3回の調査を行った。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計
調査回数	4	11	4	7	6	5	3	3	43

表-1. 月別調査回数

## 《調査方法》

1. 口径7cm、深さ7cmのプラスチックカップ6個をピットホールトラップとして仕掛け、定期的に見回りトラップにかかったオサムシを回収した。トラップの仕掛け方は、地面にカップが入るだけの穴を掘り、トラップの口が地面と同じ高さになるように埋め込み、トラップの上にはいたずら防止と雨水の流入を防止する目的で、カップの口径より大きめの石を2～3個置いた。この時、カップとの間に虫が入り込めるだけの隙間を作った。カップには底から約2cmの所に水抜き用の穴を2か所空けた。
2. 誘因物質には鮭酢を使用し、2週間に1回補充した。1回に約3～5cc使用した。
3. 設置場所は雑木林を通る歩道の脇で、樹齢約20年のアカマツやコナラがまばらに生え、下草はほとんど無い。
4. トラップの回収は、週1回程度を心がけた。

## 《記録したオサムシ》

回収したオサムシはマヤサンオサムシ、クロナガオサムシ、アキタクロナガオサムシ、マイマイカブリの4種類で、総数は125頭だった。

月 日	マヤサンオサムシ			クロナガオサムシ			アキタクロナガオサムシ			マイマイカブリ		
	♂	♀	合計	♂	♀	合計	♂	♀	合計	♂	♀	合計
4/ 14				(トラップの設置)								
4/ 18												
4/ 20												
4/ 29	1		1									
5/ 1		1	1									
5/ 3		6	6									
5/ 5	2	2	4									
5/ 8	3		3				1		1			
5/ 10		3	3									
5/ 12		1	1	(いたずらされていた)								
5/ 15				(いたずらされていた)								
5/ 18	1	1	2									
5/ 20						1	1					
5/ 23												
5/ 29		1	1									
6/ 2		2	2									
6/ 5		1	1									
6/ 12	1	1	2									
6/ 26		3	3	1		1				1		1
7/ 1		1	1		2	2	1		1			
7/ 7	6	5	11		1	1						
7/ 10	1		1	1		1		1	1			
7/ 15		1	1									
7/ 22	3	5	8									
7/ 24	1	4	5							1		1
7/ 31	11	9	20									
8/ 1	1	3	4									
8/ 6	3	2	5									

8/ 13	4	6	10									
8/ 15		1	1									
8/ 21												
8/ 28	1	(緑色)	1									
9/ 4												
9/ 11												
9/ 18					1	1						
9/ 25				3	1	4						
9/ 29		1	1	1	1	2						
10/ 10												
10/ 16												
10/ 25				3	3	6						
11/ 3					1	1						
11/ 13					1	1						
11/ 23				(トラップ撤去)								
合計	39	60	99	9	11	20	2	2	4	0	2	2

表-2. 調査日と回収したオサムシ

月	マヤサンオサムシ			クロナガオサムシ			アキタクロナガオサムシ			マイマイカブリ		
	♂	♀	合計	♂	♀	合計	♂	♀	合計	♂	♀	合計
4	1		1									
5	6	15	21				1	1	2			
6	1	7	8	1		1					1	1
7	22	25	47	1	3	4	1	1	2		1	1
8	9	12	21									
9		1	1	4	3	7						
10				3	3	6						
11					2	2						
合計	39	60	99	9	11	20	2	2	4	0	2	2

表-3. オサムシの月別採集数

## 《種の性比について》

採集数は、マヤサンオサムシ、クロナガオサムシ、マイマイカブリ共に雌の方が多く、アキタクロナガオサムシは同数だった。

## 《季節の変動について》

マヤサンオサムシの採集数には2つのピークがあり、7月にもっとも多く、次に5月が多かった。クロナガオサムシも同様で、7月と9月にピークがあった。(図-1)

## 《オサムシ以外の昆虫》

トラップには、オサムシ以外の昆虫も多数落ち込んでいた。ゴミムシ、エンマムシ、シデムシ、ハネカクシ、センチコガネ、コクワガタ、ゾウムシ、コガネムシ、キマワリ、アリ、ヤガ、ハチ、ハエの仲間を回収した。これらの中の甲虫についても、高羽正治氏に同定していただいている。昆虫以外でカニ、ゲジゲジ、クモ等も回収した。

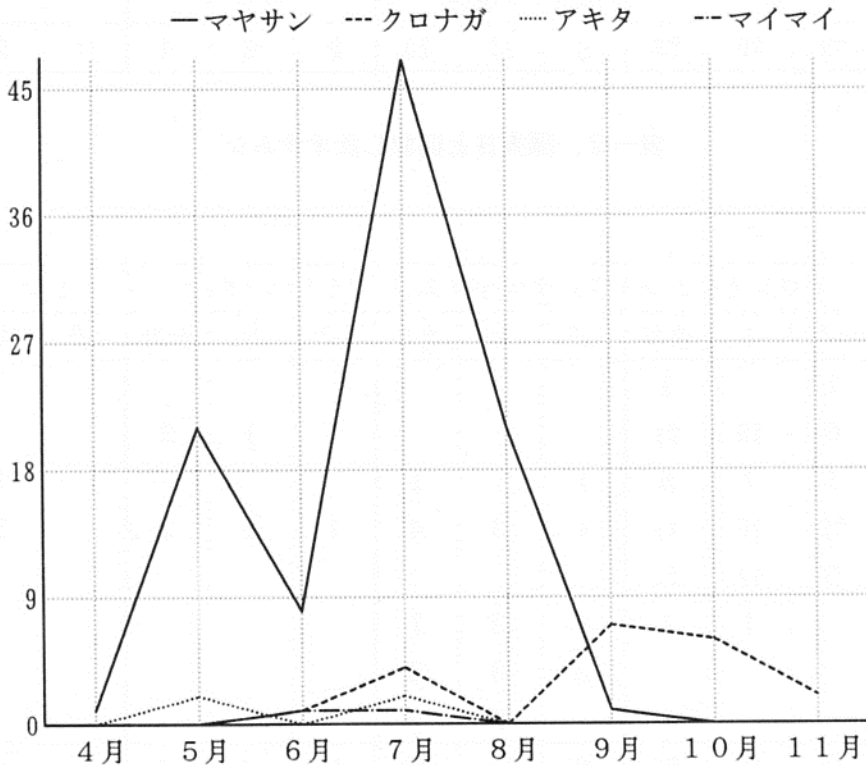
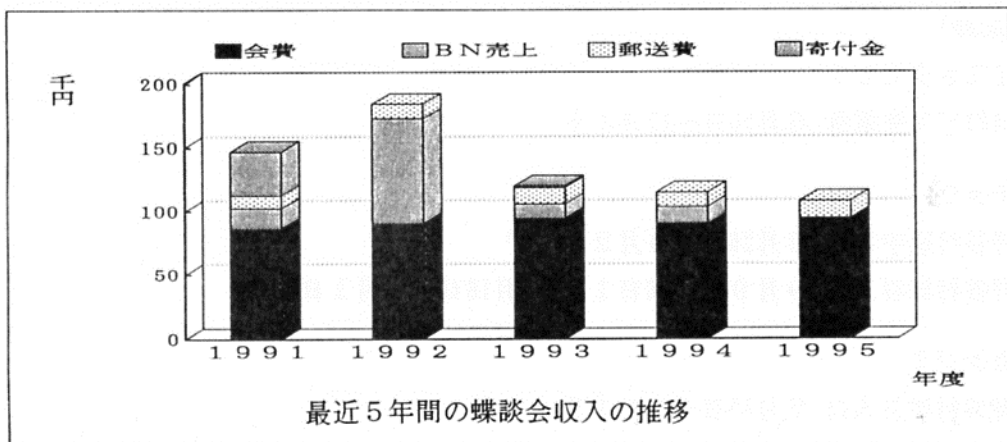


図-1. オサムシの月別採集グラフ

## 《考 察》

1. 今回設置したトラップは6個、採集したオサムシ総数は125頭だった。採集数が少ないので、今回の数字と「憩いの森」のオサムシ相は分けて考えた方が良さそうである。
2. 採集したオサムシは4種で、個体数は多い種からマヤサンオサムシ(79%)、クロナガオサムシ(16%)、アキタクロナガオサムシ(3%)、マイマイカブリ(2%)の順となった。トラップ数が少ないので、トラップ設置場所による種の偏りがあったと思われる。
3. 捕獲した個体の性比は3種について♀の方が多かったが、理由としては以下の事が考えられる。
  - 1) ♀の方が多い。
  - 2) 採集方法の問題(♂は鮭酢を好まない)。
  - 3) 生態的な問題(♀の方がより行動範囲が広い)。
  - 4) 採集不足による誤差の範囲。
4. 季節的変動で採集数には2つのピークが表れたが、一時的に個体数が減るのか、採集不足による誤差の範囲なのか検討の余地が残った。
5. マヤサンオサムシは春から夏にかけて、クロナガオサムシは夏から秋にかけて多く採集された。
6. オサムシ以外の虫も多くかかったが、この中でコクワガタ、ゾウムシがかかったのは意外だった。
7. トラップが一度いたずらされたが、犯人は人間ではなくカラスであろうと推察している。これを防ぐ方法はいろいろと議論されているが、今回はトラップの上に置く石を大きくすることによって再発を防止することができた。

《やた しんぺい 〒923 小松市上小松町丙192-8》



## 訪花性誘引器に落ち込んだ蝶

松 井 正 人

## 《はじめに》

昆虫相の調査等で、最近盛んに訪花性誘引器が使われている。昆虫が花に集まる性質を利用したトラップで、花の香り役の誘引剤と捕虫役のバケツがセットになっている。バケツの中には、殺虫用の水と中性洗剤、防腐剤としてソルビン酸が入っている。各種の訪花性昆虫がバケツに落ちるが、少ないながら蝶も落ち込んでいる。今回は、この蝶について報告したい。

なお、誘引器を準備するにあたって便宜を計っていただいた、江崎功二郎氏ならびに江口元章氏にお礼申し上げる。

## 《調査法》

調査は1994年と1995年に6か所で行ない、原則として1週間に1度見回りをした。誘引剤にはアカネコール（サンケイ化学株式会社）を使い、誘引器には黄色と白色の昆虫誘引器（サンケイ化学株式会社）を用いた。誘引剤は約2か月で取り換え、1トラップに2個使った。誘引器は、樹の枝にひもでつるし、見回りの都度ひもを緩めて下に降ろした。

調 査 地	調 査 期 間	誘引器の色	誘引器の高さ
押水町宝達山頂上1	1994年6月5日～10月29日	黄色	5 m
押水町宝達山頂上2	1994年6月18日～10月29日	黄色	5 m
津幡町甲斐崎山頂上	1995年5月13日～7月30日	黄色	10m
吉野谷村途中谷	1995年5月14日～10月1日	黄色	8 m
吉野谷村雄谷入口	1995年6月10日～10月1日	黄色	10m
尾口村三又発電所	1995年6月10日～10月1日	白色	15m

表-1. 調査地と調査期間

## 《採集記録》

## 1) ダイミョウセセリ

尾口村三又発電所 6月10日～17日 1♀

## 2) キチョウ

吉野谷村途中谷 8月26日～9月2日 1♂

吉野谷村雄谷入口 9月9日～16日 1♀, 9月16日～10月1日 1♀

## 3) アカシジミ

吉野谷村雄谷入口 7月15日～29日 1♀



## 4) サカハチチョウ

- 押水町宝達山 1 7月16日～23日1頭, 7月30日～8月6日4頭, 8月6日～13日3♂,  
8月13日～20日3頭, 8月20日～27日3頭
- 押水町宝達山 2 7月16日～23日2頭, 7月23日～30日6頭, 8月6日～13日1♂,  
8月13日～20日6頭, 8月20日～27日1頭
- 吉野谷村途中谷 9月9日～16日1♂, 9月16日～10月1日1♂

## 5) スミナガシ

- 津幡町甲斐崎山 5月13日～20日1♂, 5月20日～27日1頭, 5月27日～6月3日1♂,  
6月3日～10日1♂

## 6) アサギマダラ

- 押水町宝達山 1 9月18日～23日1♂

## 《まとめ》

複数が落ち込んだサカハチチョウ、スミナガシ、キチョウはアカネコールか誘引器の黄色に誘引されたものと思われが、1頭の種は偶然落ち込んだ可能性がある。なかでもアサギマダラは、その時期トラップの周りを多数の個体が飛び交っていたのに、1♂だけなのは偶然としか思われぬ。

また、多数が誘引されたサカハチチョウとスミナガシは、総てについて調べてないが♂だけが誘因されているようで興味深い。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 1995年収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額(円)	項 目	金 額(円)
1995年度会費	74,000	会誌作成費	69,216
当該年度以前会費	20,000	例会費	16,000
会誌売上金	0	助成費	0
郵送負担金	13,500	郵送費	35,090
寄付金	0	消耗品費	4,380
前年度繰越し金	131,995	次年度繰越し金	114,809
計	239,495	計	239,495

十年会費 2,000円

† 郵送負担金 500円

## ヒロヘリアオイラガの石川県における記録

富 沢 章

ヒロヘリアオイラガ (*Parasa lepida* Cramer) は従来、鹿児島県以南に分布していたが、1979年頃から北九州、関西方面で急に発生し始め、現在、太平洋側では千葉県、日本海側では福井県まで北上しており、個体数も増加しているようである。

今回、下記のとおり石川県からも本種の分布が確認されたので報告する。

1995年 7月29日	金沢市金石東	中令幼虫 4頭 (食樹コブシ)	松田正三採集
1995年 8月 5日	金沢市泉野出	中令幼虫 3頭 (食樹ナカマト)	徳本 洋採集

上記の幼虫は、飼育の結果、同年の8月下旬に羽化した。

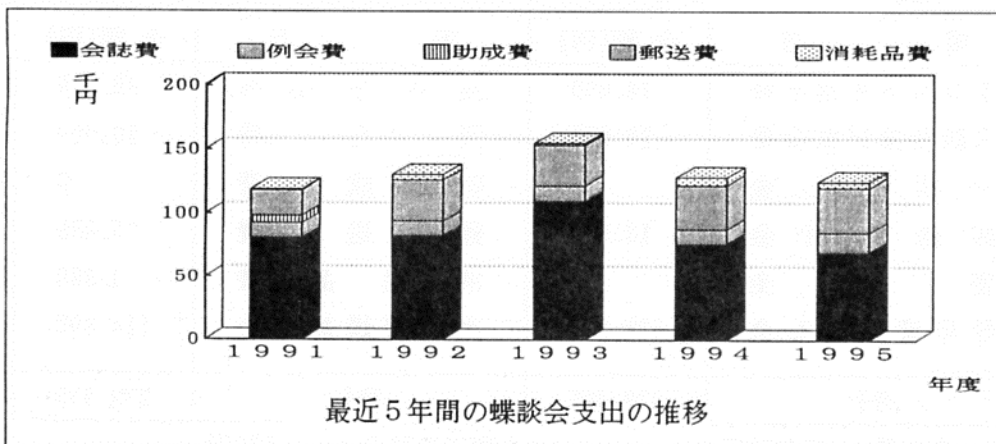
松田氏によれば、本種の幼虫は1994年から発生しているとのことであり、自宅のアンズ、カエデ、ヤマザクラにもかなり大量に見られたようである。

本種は、他県の例からみても庭木や街路樹において発生しており、これらの移動によって分布が拡大しているものと思われる。アメリカシロヒトリと同様、山地帯には侵入できず、市街地を生息域とする都市型の蛾と言えよう。

なお、本種はイラガ科の1種で、刺されると腫れることで有名なイラガよりも痛みが長く持続するといわれているが、私が手の平や甲で触れても痛みは感じなかった。腕の内側の柔らかい皮膚に触れると少しヒリヒリし、赤く腫れるが数時間で消失する程度でイラガのような強い痛みや痛みの持続はなく、毒性は低いように思われた。

末筆であるが、本種の発生状況をご教示いただき、同定の機会を与えて下さった松田正三氏、徳本 洋氏に深く感謝する次第である。

《とみさわ あきら 〒923 小松市大川町3-71》



## カワラゴミムシの追加記録と一知見

井村正行

カワラゴミムシ (*Omophron aequalis* Morawitz) は、これまで金沢市犀川や金沢市浅野川、手取川などで記録されていたと聞いている。しかし、河川工事等による環境悪化の為か、近年の記録は全く聞かない。ところが、カワラという名前にもかかわらず、海浜のゴミの下から100頭を越す個体を採集したので報告する。

カワラゴミムシ 1995年7月9日 羽咋市滝港 成虫多数・1蛹 井村正行・他

中西重雄、入場 登、松井正人の3氏と共に、滝港周辺で海浜性昆虫の調査をしていたところ、打ち上げられた海藻の下から本種を得た。小川が海に流れ込む付近が良く、海藻とゴミが混ざった漂着物の下から数頭を得、さらに漂着物の下の砂の中1cm～3cm位の深さから多数を得た。

調査に同行し、筆者に発表を委ねられた中西重雄、入場 登、松井正人の3氏に感謝する。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

## 石川県におけるアイヌハンミョウの記録

野中勝

石川県におけるアイヌハンミョウ (*Cicindela gemmata aino* Lewis) の近年の記録は、橋場(1993)によると存在しないようなので、上田 昇氏より譲渡されたニワハンミョウ中に混入していた下記の個体の記録を報告する。標本を恵与された上田 昇氏に感謝したい。

アイヌハンミョウ 1990年5月17日 金沢市下涌波 1♂採集 上田 昇

本種は、出現も姿を消すのも早いようである。近年減少しているかどうかの結論を出す前に、早い時期の調査をお願いしたい。

## 《参考文献》

橋場 清, 1993. 石川県のハンミョウ科. アカハネムシ, (1):2-4. 石川むしの会.

《のなか まさる 〒458 名古屋市長区鳴海町伝治山1-2 タウン伝治山9-206》

## 石川県初記録となるカミキリムシ2種の記録

井村正行

1) エゾナガヒゲカミキリ Jezohammus nubilus Matsushita

1995年5月14日 加賀市錦城山 1頭採集 矢田新平

矢田氏からは、カエデの花のスイーピングで採集したと聞いている。本種は、全国で局所的に採集されており、本県にも幼虫のホストとなるニガキが分布することから、生息が予想されていた。白山山麓が有力視されていたが、加賀の市街地に近い低山で採集されのは意外であった。今後、加賀低山地をはじめ白山山麓での追加記録が期待される。

2) アカジマトラカミキリ Akajimatora bella Matsumura et Matsushita

1995年9月2日 吉野谷村中宮途中谷 1♂採集 松井正人

松井氏が、アカネコールの誘引トラップで採集した。採集時には生きていたので、トラップ回収直前に誘引されたものと思われる。過去に中宮周辺で採集されていると聞いたことがあるが、記録の発表も無く、採集個体を確認した人も知らないなので、この記録を初記録として報告する。

本種は成虫の発生期が8月下旬～9月であり、ホストのケヤキからあまり移動しないので、初記録がなかなか出なかったものと思われる。幼虫のホストとなるケヤキは県下全域に分布し大木もかなり残っているので、今後山間部から追加記録が出るものと思われる。

今回の報告にあたり、貴重な記録を筆者に委ねられた矢田新平、松井正人の両氏に深く感謝する。

《いむら まさゆき 〒920-01 金沢市湊2-116-70》

## クロヒカゲモドキの越冬前幼虫の生態について

諸道秀人

クロヒカゲモドキは、大津市南半部に広く分布し、越冬後の幼虫はススキやスゲの仲間から発見されていたが、越冬前の幼虫に関しては大津市近郊での観察例は無かった。

1995年9月23日、宇治市陀羅谷においてクロコノマチョウの幼虫採集時、高さ20cmのススキの幼株から3頭のクロヒカゲモドキの幼虫を採集した。

当初は同地にあったチヂミザサ、アシボソで飼育していたが、その後自宅付近のエノコログサ、メヒシバで飼育している。11月現在、良く食べているが体長の変化はほとんどない。

《もろみち ひでと 〒520-21 大津市一里山1-8-23》

## ヒメハルゼミの声を聞く会

松井 正人

1995年7月18日曇り、午後から晴れるとの予報に北陸自動車道を一路新潟県の能生へ向かう。道すがらパラパラと雨が落ちるものの、境川を越える辺りから明るくなってきた。能生インターチェンジを降りると、白山神社はすぐそこで、神社横には町営の駐車場があった。車を入れ、身支度をしていると神社方面一帯が騒がしい。あの声かと勇んで行くと、神社横のサクラの木からニイニイゼミの大きな声。この声だったのかなあと思いつながりながら進むと、トンネルがあり地図入りのカンバンがある。白山神社社叢の説明らしく、ヒメハルゼミについても書いてあるが、地図が良くわからない。まっすぐ進むとヒメハルゼミになっているので、まっすぐトンネルへと進む。違うような気がしたが、トンネルの向こう側かも知れないと進んでいくと、向う側は住宅地だった。まあ、こんなことだろうと、トンネルを引き返す。このトンネルは歩行者専用で、通り抜け2分と書いてあった。

トンネルの出口に近づくに連れ、外の騒がしさが耳に入って来る。抜けるとトンネルの山が騒がしい。ウーーンと鳴っている。おそらくこの声だろう。ウーーンに交じってニイニイゼミの声もはっきりと聞き取れる。トンネルのちょっと手前を神社側へ入ると、山へ続く道があった。ニイニイゼミの声が聞こえない所へ行こうと山を登り始めると、ウーーンが段々小さくなり、消えてしまった。午後2時。次はいつごろかと思っていると1、2分程ですぐ鳴きだした。川の音が耳ざわりなので、山の中へと入って行くと、梅雨のせいか大変湿潤で、ムツとしている。カもたくさんまとわりついてくる。樹木標示板が目につき、オニグルミ、トチノキ等とある。こんなところかと思っていると、その上はカシ林で、アカガシのちょうど目の高さに羽化したばかりのヒメハルゼミの♂がいた。今頃羽化するのかと辺りを探すと、更に1♂1♀が見つかり、樹幹を歩いている幼虫も見つかった。ついでにコクワガタが1♂1♀。このカシ林で山は終り、そこから先は急斜面になっていて、真下は国道8号、そして日本海へと続いている。ここで再びヒメハルゼミの大合唱。この山全体がいくつかのグループに分かっているかのようで、ひとつのグループの合唱が遠くに聞こえてきたかと思うと、少し間をおいて次のグループが鳴きだす、これが次々に起こって大合唱となる。この時たまたまいくつかのグループの境にいたので、それぞれのグループが鳴きだす衝撃波がたまらなく、震えがきそうだった。戦国時代にタイムスリップし、今まさに合戦が始まらんとするまっ只中で、右に左に時の声<sup>1</sup>が上がるのを聞いているかのような感じだった。しかし、あるグループの合唱が遠くに聞こえていても、全グループに波及しないで終わってしまうことや、1、2頭が単独で鳴いていることもあった。

1時間程すると、段々と鳴かない間隔が伸びてきたので山を降りると、何時の間にか晴れ上がったのか、青空だった。天候の回復とともに、鳴かない間隔が伸びたのだろうか。

《まつい まさと 〒920-01 金沢市大場町東871-15》

## 小松昆虫会が発足

金沢について虫屋人口の多い小松市で、中山佐一郎氏を中心に、六人の虫屋が集まった。「小松の虫は我々の手で」をモットーに、地道な活動を展開しようとしている。昆虫館もでき、小松の昆虫界は賑やかになってきた。

## 温泉をさがせ

こう寒くなると、やはり温泉はありがたい。採集の後の温泉は、たまらなく好い。白山方面には目白押しで、奥能登にも好い所がある。鳥越の大門、能都の縄文真脇、富来のじんのび等はなかなかだ。ところが、口能登に温泉が見当らない。どこかに好い所はないものか。

## 江口ババの顔がほころんだ

首もまわらぬ程仕事に追いまくられている江口氏だが、クリスマスは親子で過ごし、翌日は、白山方面のスキー場で束の間の休息を楽しんだ。

## 元氣印の山口英夫氏

精力的に生息調査をこなしている山口氏。最近頭が薄くなったとぼやいているが、動きはますます盛んになるばかり。帽子をかぶると、若返っているかのようです。

## ラオスは夜汽車に乗って

ラオス行が重なる指田氏、ビエンチャンへはバンコックから夜汽車と船を乗り継いで行くらしい。経費を抑えているかのようだが、夜汽車はツインの小室でシャワー付。乗車時間は約十一時間、大酒を飲むのも良いが、美人同伴なんてのも良い。

## 二足のワラジは超多忙

鳥に虫に忙しい日々を送っている矢田氏、今年はずつと迷蝶にこだわりたいともらしていたが、今冬は鳥三昧。ゼフはもっぱら空中戦が好みらしく、飼育は頭にならない。言い忘れたが、本業が一番忙しいらしいよ。

## 佐多岬にまたまたリーチ

井村氏、クロモンヒメナガヒメルリが呼んでいると、佐多岬に三度目のリーチをかけた。一回目は全くシキミが分からず、二回目はシキミとミヤマシキミを勘違いし、流れてしまった。今回は、しっかりとシキミを覚え込んだ上でのリーチだったが、あわれ今度も流れてしまった。

## 澤田氏、ただ今思案中

オサムシ、ピドニア、アカトンボと数のこなせる虫が好みの澤田氏、今年は何をやるうかただ今思案中。数さえ採れば納得するので、やらせたい虫が有れば今がチャンス。

## 正月に舞うカバマダラ

小松で大発生したカバマダラの子孫が、まだ飼育されている。小松昆虫館の館長は、カバマダラにぞつこん惚れ込み、死なすのはかわいそうと枯れだしたガイモから幼虫を採集し、花屋で買ったフウ

セントウワタで飼育している。

このまま行けば、正月にもカバマダラが飛びそうだ。

## 目録掲載種は七千五百種

一月十四日文教会館で昆虫目録の打合せ。九人が集まり、目録の大筋が決まった。目録は六百ページ程で、掲載種は約七千五百。

## 例会の記録

十二月七日(木) 八時から城南管工二階にて開催。

能登と小松で発生したカバマダラに話題が集中。富沢氏が、気象データと農業害虫データを基に梅雨前線移動説を展開した。

その他、昆虫界は指導者不足、ナシヨナルパークは採集禁止、マウスがダメなんです、オオクワとネプトは必ず見つける、昆虫カレンダーができました等。

参加は佐々木、富沢、指田、竹谷、飯田、松井、井村、江崎、高田、生田、中西、細沼の十二人。飯田氏は新入会員。

# 会員の動き・しやばの動き

イリオモテヤマネコに遭遇二十年ぶりに西表で採集にふけた山岸氏、懐しの蝶に感激。新入りの蝶にも会え、楽しく時は過ぎていったが、ハイライトはなんととっても山猫との遭遇だった。

**高田君、マイカーを購入**  
高田君、念願のマイカーを購入。「中古の軽ですよ」なんて笑ってたが、今の学生はほとんど車持ち。キャンパスは学生の車で一杯だが、昔はチャリが主流で、ゲンチャリは花形だったんだがなあ。

**秘密兵器はマウスが苦手**  
風邪をこじらせたとばかり思い込んでいた中西氏だったが、原因はどうもマウスらしい。なかなか直らず不安がつ

のつていたが、マウスアレルギーと分かって一安心。それにしても来年はネズミ年、ペットのマウスが増えそうな気配で、いささかゲンナリ。

**ゴケグモ殺人事件**  
アメリカのクロゴケグモをすり潰した液は、馬をも殺すらしい。トリカブトより簡単に手に入るゴケグモ、しかもすり潰しただけで使える。ヤバイですなあ。ミステリーのネタで済めば良いのだが。

**指田氏、引越す**  
ついに標本の置場所がなくなつたか、標本箱の重みが限界を越えたか、近所に引越した。気がかりも無くなり、精力的に収集ができるで大張り切りの氏であった。  
新住所 材木町十五の六十八

**アフリカ土産は糞虫一匹**  
佐々木君、ケニアへ二週間行ってきた。盛り沢山の虫を採ってきたかと思いきや、なんと糞虫一匹。乾季の終りで虫はいなかったとか、国立公園は採集禁止とか行っていたが、ネットは持って行ったのだろうか。

**髪型が変わった訳**  
これまでパーマだった松井氏の髪型が変わった。横と後ろを刈り上げたイチロースタイルだが、本人はユパスタイルと言っている。これには訳があり、てっぺんが薄くなったのを、周りも薄くする事でカモフラージュしているらしい。

**パパはなんでも知っている**  
キツネノマゴとかヒロハノヘビノボラズとか、妙ちきりんな草木を知っている。枯葉や枯枝でも名前がわかる。すごいと思っていたけれど、ボクの知っているヒヤシンスやクロツカスは知らなかった。

## 翔 NO.118

1996年2月1日発行

百万石蝶談会

金沢市大場町東871-15 松井方

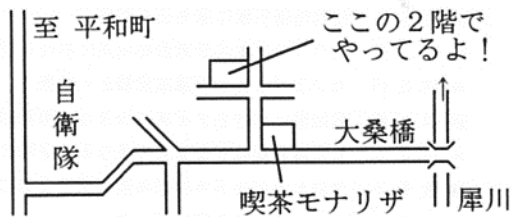
〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜8時から

TEL参加もOKです(0762-44-3318)



## 目 次 (118号)

松 井 正 人：平地で聞いたチッチゼミとエソゼミ類の声	..... 1
矢 田 新 平：小松市の「憩いの森」におけるカミシについて(1994年)	2
松 井 正 人：訪花性誘引器に落ち込んだ蝶	..... 7
富 沢 章：ヒロヘリアオイラガの石川県における記録	..... 9
井 村 正 行：カワラゴミムシの追加記録と一知見	.....10
野 中 勝：石川県におけるアイヌハンミョウの記録	.....10
井 村 正 行：石川県初記録となるカミキリムシ2種の記録	..... 11
諸 道 秀 人：クロヒカゲモドキの越冬前幼虫の生態について	...11
松 井 正 人：ヒメハルゼミの声を聞く会	.....12
編 集 部：会員の動き・しゃばの動き	.....14